

15. 石清水八幡宮関係文書の調査

竹中 友里代

1. 八幡市橋本・岡家文書調査

引き続き古文書の写真撮影を64号までおこない、1～64号文書についての目録の採取をおこなった。前年度調査した天保2年（1831）の「御神領橋掛り控帳 水抜筋橋掛り控帳」では、岡九郎兵衛は橋や樋門の修復維持管理をしていたが、その子の九左衛門の情報を得た。

岡九左衛門は、天保9年生まれ、嘉永3年（1850）12歳で大工職である父の岡九郎兵衛に付いて修行した。明治6年（1873）八幡校建築を請負し、数代八幡庄で大工職として営んでいたという。この八幡校建築に関わる史料は未見だが、明治21年5月「八幡尋常小学校教場建築仕様見積書記」は、大工岡九左衛門から八幡町他二ヶ村連合戸長山田直竹に提出されたものである。明治20年学制変更により、現在の京阪石清水八幡宮駅近くに所在した知周校が橋本・志水などの分教場を統合して八幡尋常小学校と改称し同22年4月に開校した。分教場統合により教場の新築をはかられ、全工費237円余りを計上したものである。さらにこの前年の同20年岡九左衛門あての見積書を確認した。これには材木などの資材や旧の土蔵・石垣撤去に伴う手間賃などが加算されているほか、淀の瓦屋の見積も含まれる。これら記録から岡家が諸職人を指揮して学校建築工事を請け負っていたことが明らかとなる。

また慶応3年（1867）から明治6年までの横帳4冊は、「御役所御用」「庄内会所御用」の表題があり、石清水の山下会所に大工として勤めた記録である。興味深いのは慶応3年2月5日に、釘や大工の手間賃が上様御小休所入用とあり、会所に簡単な改修がおこなわれていた。同2月7日、18・19日、20・21日、同3月21・22日にも上様御用で出勤している。当地の史料では2月初旬將軍徳川慶喜は騎馬にて八幡で小休して下坂、3月22日にも橋本から船で大坂へ向かう様子を見物している。將軍のあわただしい動きに合わせて大工九左衛門は石清水の会所に詰めていた。また神領内の樋門、橋や石灯籠の蓋などの修理をおこない、会所で使用するそろばんや書類を収納する木箱や引出しなどを手作りしていた。なお、「役行者縁起」については全文翻刻を掲載する（竹中2024b）。

調査日程 2023年6月11日、10月10日 参加者：岩本悠梨（4回生）、Anna Dulina（京都大学大学院博士後期課程）

2024年5月27日、9月18日 参加者：釜野祥江（博士前期課程）、渡部凌空（4回生）、岩間智哉、山蔭晴人（以上3回生）

2. 八幡市家村（川源）家文書調査

2021 年 3 月、京都府立山城郷土資料館にて古文書相談に立ち会い、石清水八幡宮神人組織や補任状などを解説するなかで所有者から調査依頼を受ける。2021 年 10 月借用、文化情報学実習にて整理。2024 年 8 月 29 日所有者に文書を返却、仮報告書を提出した。報告の内容は、文書の概要、目録（箱 1：1～284 号、290 点、箱 2：1～4 号、44 点、額装および別置分：35 点）、補任状一覧、補任状と箱 1 の翻刻と各文書の解題、箱 2-1-2 石清水明細帳翻刻である。

3. 久保田又右衛門家旧蔵文書調査

2022 年有志により清掃し粗仕分けした後、同年 10 月より文化情報学実習にて整理。

2024 年 7 月 21 日 文書目録報告 箱 1：1～69 号 73 点、箱 2：1～70 号 71 点
計 144 点

2024 年 7 月 30 日 所有者から歴彩館へ寄贈、歴彩館にて公開予定。

4. 橋本西遊寺 古文書フィールドワーク

2024 年 10 月 24 日 於：橋本西遊寺

カルチャーセンターである NHK 守口文化センター事業である。徳川家康領知朱印状・板倉伊賀守勝重判物・歴代徳川将軍朱印状などを実見しながら、朱印状の古文書学的な特徴と大量の朱印状管理の方法などを解説した。同時に新出の岡家文書「役行者縁起」を展示解説した。その後西遊寺本堂建物および境内地、地蔵堂内安置の役行者像などを見学した。

参加者：上武恒介（2 回生）、呉皓楠（研究生）

参考文献

竹中友里代 2016「西遊寺の古文書調査」『石清水門前寺院・南山城地域の古文書』（京都府立大学文化遺産叢書第 10 集）

竹中友里代 2022「近世石清水八幡宮領内禅宗寺院の活動―神応寺追補資料を中心に―」『京都府立大学学術報告 人文』第 74 号

竹中友里代 2024a「八幡市橋本・岡家文書調査」『京都府立大学文学部歴史学科フィールド調査集報』第 10 号

竹中友里代 2024b「石清水八幡宮の神仏分離と行教信仰」『令和 5 年度京都府域の文化資源に関する共同研究会報告書（洛南編）』

竹中友里代 2024c「石清水八幡宮社務家の文芸活動―御綱曳神人家村家文書と社務日記―」『京都府立大学学術報告 人文』第 76 号

渡邊幸奈 2023「八幡市家村（川源）家文書調査」『京都府立大学文学部歴史学科フィールド調査集報』第 9 号

渡邊幸奈 2024a「八幡市家村（川源）家文書調査」『京都府立大学文学部歴史学科フィールド調査集報』第 10 号

渡邊幸奈 2024b「八幡市久保田又右衛門家旧蔵文書調査」『京都府立大学文学部歴史学科フィールド調査集報』第 10 号

編集後記

余裕をもって仕事に取り組みたい。一つ仕事が終わる度に今度こそはと思うが、今回も果たせなかった。文字通りバタバタ。年末から長い師走が続いている。一つの救いは、春からのフィールドワークに始まり、冬の集報に終わるこの一連の営みが、10号を越え、府大歴史学科の伝統として根付きつつあること。フィールドをご提供いただいた関係各所のご厚意に深く感謝申し上げたい。

なお本書の組版作業は、歴史学科文化遺産学コースの合同実習メニューとして学部生がAdobe社のInDesignを利用しておこなっているが、もちろんそのままでは本にはならない。一書にまとめるにあたって力を尽くしてくれた大学院生の頑張りにも深く感謝したい。(い)

京都府立大学文学部歴史学科

フィールド調査集報 第11号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5

発行日 2025年3月31日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町38-2
